

教育の権利をすべての子どもたちに インドの女の子への教育支援

「インド女子教育」指定募金にご協力ください！

近年、経済発展が目覚ましいインドですが、アッサム州、チャッティースガル州、西ベンガル州などでは、依然として男の子と女の子の間に教育の格差があります。また、カースト制度の名残もあり、児童労働や児童婚も問題になっています。ユニセフ(国連児童基金)はすべての子どもたちの教育の権利を守るため、女の子も勉強できるように、インド政府と協力してプロジェクトを進めています。



UNICEF/NYHQ2005-2291/Tom Pietrasik

数字で見るインド

(世界子供白書2013, ユニセフ・インド事務所より)

人口: 12億4149万2000人

6-13歳の人口: 1億9000万人

5歳未満児死亡率: 1000人あたり61人
(日本は3人)

*6-13歳の子どものうち、4.28%にあたる810万人は学校に通っていない

*支援対象のチャッティースガル州、西ベンガル州では女性の非識字率70%

*43%の女の子は18歳までに結婚する

*児童労働に携わる5-14歳の子どもの数は世界最大の2900万人

インドの女の子を取り巻く状況

- 女の子は社会的地位が低く、学校に通わせる習慣がない
- 女の子は家事などの手伝いをしなければいけない
- 学校に女の子用のトイレがない
- 先生が女の子だけに教室の掃除をさせる
- 女性の先生が少ない
- 初等教育以上の教育を受ける女の子が少ない

※地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



児童労働や児童婚の問題について学校で語る13歳の少女。

UNICEF/INDA2013-00442/Romana

「インド 女子教育」指定募金

2014年～2016年

茨城・千葉・岐阜・佐賀・熊本の日本ユニセフ協会協定地域組織が
合同で呼びかける募金です。

プロジェクトの目標

- A. 子どもにやさしい学校やシステムを整える
- B. 初等教育で、女の子も男の子と同じ教育を受けるためのはっきりした目標を決める
- C. 困難な状況下の子どもたちや女の子への教育支援プログラムを増やす
- D. 州政府が女の子への教育のために教師育成システムを強化する



UNICEF/INDA2012-00538/
Dhiraj Singh

予定されている活動



女の子の教育戦略を地域ごとに立案

教育格差が大きいインドでは、女の子が学校に行かない理由が地域によってさまざまです。ユニセフは、各州が地域性を鑑みて立案した女の子の入学率促進やコミュニティの意識改革、政府職員へのジェンダーに関する講習や、女の子のためのクラブ活動の紹介などの活動を支援します。

ラジャスターン州政府が運営する学校で学ぶブージャ。州政府とユニセフは協力して学校の運営を試験的に始めた。
UNICEF/INDA2013-00421/Manpreet Romana

女の子のための特別授業や施設改善

ユニセフは、生活技能教育や健康支援などの女の子のための特別授業や、女の子用のトイレの設置など、ハード面・ソフト面両方を支援し、女の子が通い続けられる学校の環境づくりを行います。

上: ユニセフが政府に働きかけて設置された、中学の女の子用のトイレ。
UNICEF/INDA2009-00243/Tom Sampson
下: トイレの外につくられた手洗い場で手を洗う女の子たち。
UNICEF/INDA2009-00263/Tom Sampson



みなさまのご協力が必要です。

みなさまのご支援で、支援対象の州の教育制度や政策を改善し、400,000人の女の子たちを助けることができます。どうぞあたたかいご協力をお願いいたします。

お問い合わせ: 公益財団法人日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会) 団体・組織事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 TEL: 03-5789-2012 FAX: 03-5789-2032